

SDGs未来都市等進捗評価シート

石川県白山市

2020年8月

SDGs未来都市計画名

白山市SDGs未来都市計画

1. 全体計画

計画タイトル	白山市SDGs未来都市計画
2030年のあるべき姿	白山の歴史・文化と豊かな自然環境の恩恵を、全ての市民や組織が実感し、白山手取川ジオパーク及び白山ユネスコエコパークの理念に基づいて、山間部において経済発展や豊かな生活を実現し、その成果を白山市全体に還元するサイクルを目指す。

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール	経済	社会	環境
	ゴール4 ターゲット4.4 ゴール5 ターゲット5.b ゴール8 ターゲット8.2, 8.5   	ゴール4 ターゲット4.3, 4.7 ゴール5 ターゲット5.C ゴール11 ターゲット11.a   	ゴール13 ターゲット13.1 ゴール15 ターゲット15.2, 15.4  

優先的なゴール、ターゲットに関するKPI	#	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2030年		進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
	1	「白山ソサエティ」への進出・参画企業数【8.2, 8.5】	2018年7月	0 社	2030年	50 社	2020年度は5社と連携し、市内山間部で県内外の起業家などが集い、市内での事業展開について考えるワークショップイベント等を実施した。引き続き企業を山間部に興味を持ってもらえるよう取り組みを進めていく。
2	「白山ソサエティ」進出・参画企業数が雇用または事業を委託する白山市在住の女性の人数【4.4, 5.b】	2018年7月	0 社	2030年	500 人	まずは企業が山間部に興味を持ってもらうことから進めている。（2020年度 実績なし）	
3	子供、女性、高齢者、障害者、介護者等が自治運営に参画し、企業と社会課題を解決するソリューション件数【4.3, 4.7】	2018年7月	0 件	2020年	20 件	災害などの社会課題に対して自発的な行動を促すワークショップ等を開催し、まずは身近にある課題等について考えてもらう参加型イベントを実施した。（2020年度 実績なし）	
4	「白山ソサエティ」における子育て支援事業の利用件数【5.c, 11.a】	2018年7月	0 件	2030年	50 件	学びの場を地域全体で提供するとともに、子どもたちを受け入れる体制づくりを地域主導で取り組みを進めている。（2020年度 実績なし）	
5	ITやAI、ロボット技術を活用した生態系の保全活動の市民参画数【15.4】	2017年1~12月	0 人	2030年	100 人	ジオパークの活動を軸に保全活動の取り組みを充実させていく。（2020年度実績なし）	
6	鳥獣による農作物被害額【15.4】	2017年1~12月	412 万円	2030年	50 万円	新型コロナの影響でステークホルダーとの協議が進んでいないが、IT等を活用した鳥獣被害に関する教育に繋がる取り組みを予定している。（2019年1~12月 678万円）	
7	収集したデータ活用による自然災害未然防止件数【13.1, 15.2】	2018年7月	0 件	2030年	10 件	今年度より収集している地下水のデータで、データを利活用する学習を実施する予定である。（2020年度実績なし）	

1. 全体計画

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題 これまで「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「白山市教育振興基本計画改定版」、「第2次白山市スポーツ推進計画」、「白山市一般廃棄物処理基本計画」、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「白山市都市計画マスタープラン」に反映させた。今後策定する計画にも反映させ、全庁体制でSDGsの取り組みを推進していく。</p> <p>■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ R元年度は全庁横断的かつ効果的に推進するため市長を本部長とする「白山市SDGs推進本部」を2回開催、市長、副市長、教育長をはじめ、部局長等の職員が参加し、外部有識者からなるアドバイザーボードの委員からの助言、意見交換会を実施した。 また、今年度はSDGs及び地方創生のより一層の推進を図るため、本市の組織機構を見直し、企画課内に「SDGs・地方創生推進室」を新設した。また、市内28地区で地区ごとに開催している「まちづくり会議」において、本市作成のパンフレットを用いて、市長自らがSDGsの推進について、市民に呼びかけている。</p>	<p>■R元年度に引き続き今年度も本市SDGs推進大使に委嘱した石川県の住みます芸人を小学校の授業に外部講師として派遣する予定をしており、次世代を担う子供たちにお笑いを通してSDGsを知ってもらえるよう市内小学生を対象に取り組みを進めている。</p> <p>■R2年度より市広報でSDGs専用コーナーを設け、情報発信に努めるとともに、新たにまちかど市民講座においてもテーマを加え、市民の皆様へ分かりやすくSDGsを伝えることとした。</p> <p>■R元年度にSDGsを楽しく学んでもらうため、金沢工業大学が開発したカードゲームの展示・体験会を開催した。</p> <p>■市内道の駅で道の駅利用者や市民に向けてパネル展（SDGsって何？）を開催した。</p> <p>■国内向けには2022年秋に日本ジオパークの全国大会を本市で開催予定であり、SDGsと連動させた取り組みの情報発信を図る。また、海外向けについてはユネスコ世界ジオパークの認定に向けた活動を通して情報発信を図る。</p>	<p>■白山市のSDGs未来都市の基本は、金沢工業大学の白山麓キャンパスを拠点にアート、サイエンス、エンジニアリング、デザインを横断した世代・分野・文化を超えた共創教育の場としての「白山ソサエティ」である。この拠点を企業や市民による社会課題解決の実証実験の場、女性が家庭や子育てを両立させながら仕事に活躍できる場として構築することが必要である。</p> <p>■現在、着実に進めている大学、並びに他地域との連携体制や取組を、持続的なものへとしていく検討が必要である。</p> <p>■特に女性の社会進出のKPIが低いとため、一層の事業推進に取り組むことを期待する。</p>
ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>■様々なステークホルダーと協力して事業を進めていくために次のとおり連携協定を締結 H30.11.5 情報通信技術を活用し、社会課題の解決や人材の育成を目的に、金沢工業大学とNTTドコモ北陸支社と「持続可能な開発目標（SDGs）における5G・ICTの利活用推進に関する連携協定」を締結 H31.3.13 SDGs、ジオパーク・エコパーク、地域産業の立地、地域振興・まちづくり等について連携及び協力を行うため、東京大学地域未来社会連携研究機構と連携協定を締結 H31.3.20 SDGsの市民への普及啓発やSDGs達成に向けて連携して取り組むために、白山青年会議所と「持続可能な開発目標（SDGs）における達成推進に関する連携協定」を締結 R元.11.22 市民や企業などに対してSDGsの普及啓発や情報発信などで相互に協力するために、北國新聞社と「持続可能な開発目標（SDGs）の推進に係る連携協定」を締結 R2.3.27 再生エネルギーの活用や観光振興などでSDGs推進に向けて連携して取り組むために、北陸電力とSDGs推進に関する包括連携協定を締結</p> <p>今年度はSDGs未来都市に選定されている金沢市を連携中枢都市とし、白山市を含め4市2町で構成する「石川中央都市圏」において、SDGsの達成に向けて、圏域全体で取組を推進することとした。また、今年度、国際的な連携を視野にユネスコ世界ジオパークの認定に向けて日本ジオパーク委員会に世界ジオパークの国内推薦を申請した。</p>	<p>■本市のSDGs未来都市計画は、人口減少や少子高齢化が急速に進む本市山間部において、産学官民が連携し、5G・ICTといった情報通信技術の利活用により社会課題の解決を探るほか、地域の資源を保全・活用しながら、経済の活性化させ、人や企業を呼び寄せる仕組みをつくり、その成果を白山市全体に還元するサイクルを確立を目指すものである。本計画が実現されることで、山間部の集落機能が保たれ、農地・森林の適切な維持管理を通じて、平野部の災害防止や本市のみならず多くの石川県民の水源の保全にもつながり、山間部の過疎地域が果たしている多面的・公益的機能を維持することができるとともに、本市が併せ持つ山間部と平野部が共生する互恵関係を構築し、山間部の地域振興に貢献する。</p>	

1. 全体計画

自治体SDGsの 推進に資する 取組の 2020年のKPI	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2019年	2020年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
	白山ソサエティの創出	4.4 8.2	「白山ソサエティ」への進出・ 参画企業数	2018年7月 0社	2019年度 5社	2020年 10社	-50% 0% 50% 100% 50%	未来都市計画を推進するために実施したイベント等で関係を構築することができた。引き続き関係強化に取り組むこととする。
	産学官民の共創	4.3	子供、女性、高齢者、障害者、 介護者等が自治運営に参画し、 企業等と社会課題に取り組む件数	2018年7月 0件	2019年度 5件	2020年 10件	-50% 0% 50% 100% 50%	災害などの社会課題に対して自発的な行動を促すワークショップ等を開催し、 まずは身近にある課題等について考えてもらう参加型イベントを実施した。 今後も大学等と連携し、楽しみながら社会課題に取り組むイベント等を実施して いく。
	女性の社会進出の礎	4.4 5.b 8.5	データ活用学習の女性の受 講人数	2018年7月 0人	2019年度 9人	2020年 50人	-50% 0% 50% 100% 18%	R元年度は写真やSNSを活用し地域の魅力発信を高める方法を学び女性 性の活躍を創出するための講座を開催した。今後も講座等を通じて活躍の 場を創出する取り組みを推進していく。